

## 電中研「低線量放射線の生物影響研究」のあゆみ

西 暦	当 研 究 所 の 状 況	国 内 外 の 状 況
1895		・ X線の発見 (Roentgen)
1928		・ 国際 X 線ラジウム防護委員会 (IXRP) 設立
1950		・ IXRP が国際放射線防護委員会 (ICRP) と改称
1958		・ ICRP の Publ. 6 に LNT 仮説が採用される。
1977		・ ICRP 1977 年勧告「Publ. 26」
1985	・ 低線量効果研究会が発足	・ 第 1 回ホルミシス国際会議 (オークランド) 開催
1987	・ 培養研究としてホルミシス研究を開始 ・ 放射線ホルミシス研究会 (当所研究方針の策定に関する検討会) が発足	・ 第 2 回ホルミシス国際会議 (フランクフルト) 開催
1988	・ フェーズ 研究 (研究方向の明確化) を開始	・ ICRP 勧告 Publ. 26 の国内法令への導入
1990	・ ホルミシス研究委員会 (所外専門家による研究支援体制) が発足	・ ICRP 1990 年新勧「Publ. 60」 ・ BEIR (米国科学アカデミー・電離放射線の生物学的影響に関する委員会) が「低線量電離放射線被ばくの健康影響に関する報告書 (BEIR )」を発表
1991	・ 「放射線と人間の係わりについて考える」(札幌) 主催 ・ 放射線による「遺伝と発ガン」特別講演会 (東京) 開催	
1992	・ 放射線ホルミシス研究プロジェクトが発足 ・ 「自然放射線によるホルミシス」特別講演会 (東京) 主催	・ 第 3 回ホルミシス国際会議 (京都) 開催
1993	・ フェーズ 研究 (ホルミシス効果の検証とメカニズム仮説の提案を目的としたプロジェクト研究) を開始 ・ 「低線量放射線による生体防御機能の活性化」に関する研究のとりまとめ	・ 第 4 回ホルミシス国際会議 (長春) 開催
1994	・ 「低線量放射線の健康影響」(東京) 主催	
1995	・ 低線量放射線研究プロジェクト研究発表会 (狛江) 主催	・ 第 5 回ホルミシス国際会議 (ビュルツブルグ) 開催
1996	・ 「放射線に対する生体の防御機構」特別講演会 (東京) 主催	
1997	・ フェーズ 研究 (ホルミシス効果の検証および機構解明) を開始	

西 暦	当 研 究 所 の 状 況	国 内 外 の 状 況
1998	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低線量放射線長期照射設備設置（狛江）</li> </ul>	
1999	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7<sup>th</sup> ICON（原子力工学国際会議）の低線量放射線影響に関する公開シンポジウム「放射線と健康」(東京) 後援</li> <li>・低線量放射線影響に関する国際ワークショップ（静岡）後援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11<sup>th</sup> ICRR（国際放射線研究会議）のサテライトミーティングとして「低線量放射線の生物影響」(アイルランド) 開催</li> </ul>
2000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画部内に低線量放射線研究総合推進準備室を設置</li> <li>・低線量放射線研究センター（Low Dose Radiation Research Center：LDRC）設立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNSCEAR2000 に Annex G として低線量放射線の生物学的影響が盛り込まれる</li> <li>・ 10<sup>th</sup> IRPA（国際放射線防護学会）にて ICRP Clarke 委員長より新勧告のドラフト開示</li> </ul>
2001	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICRP Clarke 委員長を招聘して、センター設立記念国際シンポジウム「低線量放射線防護の科学的根拠を求めて」(東京) 開催</li> <li>・放射線の正しい理解を目指し、全国の原子力施設訪問による研究紹介活動を開始</li> <li>・低線量放射線研究センター Web サイト開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICRP 勧告 Publ. 60 の国内法令への導入</li> <li>・ 2<sup>nd</sup> WONUC（世界原子力作業従事者会議）「作業従事者の健康管理に関する国際会議」(アイルランド) 開催</li> <li>・放射線とホメオスタシスに関する国際シンポジウム（京都）開催</li> </ul>
2002	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICRP 第 1 専門委員会 Cox 委員長を招聘して「低線量生物影響研究と放射線防護の接点を求めて」(東京) 主催</li> <li>・低線量放射線論文データベース運用開始</li> </ul>	
2003	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低線量放射線生物影響の評価（フェーズ 1）(低線量・低線量率放射線に特有な生体応答現象の定量的解析と機構解明) 研究開始</li> <li>・疫学研究の権威である Doll 博士、Matanoski 博士を招聘して「疫学と放射線生物学の接点を求めて」(東京) 主催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ International Journal of Low Radiation 創刊</li> <li>・ 12<sup>th</sup> ICRR のワークショップとして「低線量・低線量率放射線と発がん」(オーストラリア) 開催</li> </ul>
2004	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低線量放射線研究成果発表会「線量率効果を考える」(狛江) 開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11<sup>th</sup> IRPA にて ICRP 新勧告の見通しの必要性が論議される</li> </ul>
2005	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果発表と講演の会「線量率放射線研究～10年の成果と今後の展開～」(東京) 開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BEIR が「低線量放射線の健康リスクに関する報告書 (BEIR )」を発表</li> <li>・フランス医学アカデミーと科学アカデミーによる共同報告書「低線量電離放射線による発がん効果の評価と線量効果関係」発表</li> <li>・ ICRP 新勧告策定の延期</li> </ul>